

感謝を伝えるお辞儀についての研究

池上 諒 初田 義修 脇坂 斗馬 太田 真央 村上 絢音

近江兄弟社中学校第1学年
キーワード・お辞儀、感謝、印象

【問題と目的】

どのようなお辞儀がいいお辞儀なのか。お辞儀の仕方について調べる。

【方法】

1. 中学1年生のお辞儀を分析することを目的として、被験者(22名)のお辞儀について Kinect for Windows V2 (Microsoft社)を用いてデータを収集した。被験者の2.0m前方、床上1.0mのいちに設置し、Kinect上で計測される骨格モデル25点の関節部位のうち、頭および胸、腰、足首の4点の3次元座標を習得し、首および腰の角度を算出した。

2. 先行研究を参考として、お辞儀動作のビデオを作成した。お辞儀については、6つの動作を撮影し、それぞれに対して、「感謝に伝えるお辞儀としてふさわしいか」について10点で印象評価するアンケートを実施した。撮影したお辞儀の動画は

- ①首0度、腰15度
- ②首15度、腰0度
- ③首0度、腰30度
- ④首30度、腰30度
- ⑤首0度、腰45度
- ⑥首45度、腰90度とした。

【結果】

1. 中学1年生のお辞儀の傾向

中学1年生のお辞儀の傾向	
首の角度	30.4
腰の角度	43.2
頭をさげる時間(秒)	1.3
頭を下げて止まる時間(秒)	0.1
頭を上げる時間(秒)	0.9
首を曲げる速さ(角度/秒)	34.7
腰を曲げる速さ(角度/秒)	48.9
首を上げる速さ(角度/秒)	40.6
腰を上げる速さ(角度/秒)	55.0

中学1年生のお辞儀は、おもてなしのお辞儀として先行研究で示されているものと比較して、首も腰も深く曲がっていることがわかった。

2. お辞儀の印象評価

6種類のお辞儀についての印象評価の結果、⑤(首0度、腰45度)のお辞儀が感謝を伝えるお辞

儀として最も高い点数であった。

	首0度腰15度	首15度腰0度	首0度腰30度	首30度腰30度	首0度腰45度	首45度腰90度
印象評価(10点満点)	3.06	2.99	5.48	5.69	6.76	6.62

【考察】

1. アンケートの結果について

おもてなしとして定義されているお辞儀と中学1年生のお辞儀には違いがあった。このことから、中学1年生のみんなは良いお辞儀について知らないとわかる。

2. 先行研究との違いについて

首の角度と腰の角度が違った。おもてなしとしてのお辞儀では、首が曲がらないことが大切にされているが、中学1年生のお辞儀では、ほとんどの生徒は首を曲げていた。また、印象評価においても、首が曲がるものと曲がらないものに大きな差がなかった。

3. 今回の研究で分かったこと

アンケートの結果を見て、感謝を伝えるお辞儀としてふさわしい、お辞儀は⑤(首0度、腰45度)のお辞儀でした。

4. 今回の研究でわからなかったこと、さらに研究していきたいと思うこと

今回のアンケートは、中学校1年生のみであったため、もっといろいろな人のお辞儀についての印象を調べる必要がある。

特に、外国人のお辞儀の印象はわからなかったため、外国人の印象について研究していきたいです。

参考文献

太田 智子, 武田 知也, 2016, 「おもてなしの基本としての日本のお辞儀の動作・教示・印象に関する研究」, 人間工学/52 巻